

「国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学医学部人間健康科学科4年 谷口歩美

①学習成果

自分にどのような変化が起きたか、

台湾大学で授業を受けて、初めは先生が発する言葉のほとんど全てが聞き取れなかった。先生のジェスチャーや教室全体の動きを見て、また何度も何度も聞いているうちに、なんとなく意味を理解し、漢字を連想できるようになって初めて先生が何を言っているのかわかってきた。

授業でも放課後に街を散策する時間にも、自分の中国語能力の不足を感じたが、自分でフレーズを作って、勇気を出して発してみると、先生も SA も街の人も、理解しようと耳を傾けてくれた。発音や声調が間違っているも彼らは意味を推測してくれ、正しい発音で私が言いたいことを言い直してくれた。思い切って話してみると意外に言いたいことは伝わった。日本で学んでいる時は中国人の友人に対しても日本語を使ってしまっていたので、自分で中国語を発し、相手が理解してくれることは私にとって新鮮な喜びだった。

今までは、わからない、難しいという理由で発音とリスニングの訓練を避けていたが、実践で使うためには必要不可欠だと再確認した。わからないことを恥じずに積極的に中国語話者と交流したり、音読や暗唱をして力をつけたい。

留学中は毎日中国語に触れていたため、日本で週に2回程度教科書を開くだけだった時よりも飛躍的に聴く力や話す力が向上したと感じた。これからも継続的に、中国語に触れたい。

また、台湾で外国人として過ごすことで、どのように説明されたら、現地の言葉を初修の私でもわかりやすかったか、学び始めたばかりの言語を聞くととき、どのように話してもらえたら理解しやすいのか、把握する事ができた。日本で留学生に接する時には実践しようと思う。

週末に社団法人台北市野鳥學會が開催している例行賞鳥活動に参加した。ボランティアのガイドさん達と、好きで野鳥を見る参加者らについていき、20人程の人達と4、5時間かけてゆっくりと散歩した。ビジネスや仕事ではなく、台湾の人々と休日の趣味の時間を一緒に過ごせたことは喜びだった。お互いに下心も警戒心も無く、廟の東屋でお弁当を食べながら、おじさんおばさんと歓談した。その日には既に台湾で2週間過ごしていたため、簡単な会話が出来た。私の中国語は不错！（悪くない）と言ってもらえた。少しでも中国語を勉強してきてよかった。と思った瞬間だった。

この日に出会った人々は、私が彼らの発する単語のほぼ全てがわからなくて、何度も聞いても、根気強く付き合ってくれた。ほとんど言葉を理解しない外国人とカタコトで話すのは面倒なことであったと思う。私はこのように向き合ってもらえて心から嬉しかったし、次に来る時にはもっと沢山話せるように、日本に帰ってからも勉強しようと思えた。私は同じような立場の留学生や観光客をに対して、今まで日本でこんな風に優しく出来てはいなかったと思う。これからは根気強く話すことを忘れずに留学生と付き合いしていきたい。

また、感じたのは、学びたい言語に触れている時間が最も大切だということだ。教室で授業を受ける時間もそうだが、野鳥を見に行った時間や、英語と日本語をほぼ話さない人の中に自分を置いた時に学べるものは非常に多かった。

台北の街は新しい発見と刺激に満ちていて、散歩するだけで本当に楽しかった。中国語能力向上と街歩き満喫のためにまた留学したい。インターンシップなど、現地で働きながら学ぶ滞在のスタイルも魅力的に感じる。今度は日本人の中ではなく現地の学生や人々の中に身を置き、会話の場面での実践的な中国語を身につけたい。

また、今回のプログラム中に台湾の廟や墓など、日本に存在するものと似ているけど違う文化に触れ、自分のバックグラウンドは日本であるのだと自己を見直すきっかけにもなった。私にとっては日本の葬いや寺、生活が当たり前であり、あまり意識したことはなかったが、SA や先生に自分の文化圏での事情を説明することで、自分のバックグラウンドを今までよりも客観的に見られたと思う。

②海外での経験、

台北市内の大きな道には自転車専用道が整備されていた。公共交通機関の混雑と大気汚染対策のためにレンタル自転車が整備されており、安価で利用する事ができた。都市や交通の計画について、海外の都市を見ることで学ぶことが豊富にあると思った。

街で買い物をしていると、外見では外国人だと気づかれずに中国語で話しかけてもらえるが、会話についていけずに途中から英語や日本語に切り替わるのが申し訳なかった。台湾の人との交流は日本語や英語でも何とかできる。お互いに英語が流暢なため、英語の方が便利な場面は多々あったが、心理的な距離を縮めるためにもやはり現地の人々が使う言葉を学びたいと思った。

また、台湾の学生は英語のスピーキング能力が高く、驚いた。学生だけでなく民間の人も結構話せる。日本と同じで小学校から英語を学び始めるのだが、教育の仕方がいいのだろう。台湾大の学生に聞いてみると、授業でスピーチや演劇の練習があるそうだ。日本の学校での英語教育は乏しいと以前から感じていた。自分の英語力向上だけでなく、将来、英語教育に関わる事があれば学び方を活かしていきたい。

街を歩いていると、大小さまざまな緑地や公園、ちょっとした広場が至るところにあった。そこで夕方から夜にかけて見かけたのは、中年の女性たちが集まって軽いダンスをしている様子だった。公園や広場で音楽をかけ、15~30人程度の女性がラフな服装で踊っている。いくつかそんな集団を見かけた。場所によってはインストラクターらしい人がマイクを付けて踊り方を指導していた。

この光景は2018年の夏に北京の街角でも見かけた。場所は百万遍のような大きな交差点の歩道だった。北京の友人にあれは何だと聴く「オバチャン達が集まって踊っている。邪魔だから社会問題になってるよ。」と答えてくれた。

邪魔になるという問題はさておき、街中で近所の人が集まって軽い運動をする、この習慣は非常に良いアイデアだと感じた。現在の日本では希薄になってきている地域のつながりを作ることが出来るし、それによる地域での生活における互助的なサポートが期待できる。お年寄りも無理のない範囲で運動でき、引きこもりの防止や健康寿命を延ばす効果がありそうだ。私がもしも高齢化地域の保健師になったら、きっと、この街かどダンス教室の導入を企画すると思う。

③プログラム内容について

プログラムの内容について、総じてとても良く、満足している。

先生の指導は優しく丁寧で、SAさんのサポートが手厚く有り難かった。

最終日のプレゼンについて、SAさんから「面白かった」「君のプレゼンが好き」とコメントをもらい、とても嬉しかった。

④進路への影響について

私は現在、看護学を学ぶ学生であるが、病院へだけではなく公務員や民間企業への就職を検討している。

今後の進路について、今までも海外への出張や赴任がある仕事に興味はあったが、なんとなく自分には無理なのではないか感じていた。

だが今回のプログラムを通して、優秀な同窓生や先輩、現地の学生との交流によって自分自身を客観視することができた。比較すると自分の能力や教養が足りないことをひしひしと感じ、自分自身が更にダメに思えてきたが、彼らを目標として学ぶための道筋が見えたように思う。

また、台湾の学生や参加者の学生との議論や会話の中で、海外の人と関わってくためには、歴史や政治の状況を理解することの大切さを実感した。このプログラムに参加してからは、自分は将来的に国際的な仕事をする事は不可能ではない。と思えるようになった。ほかの参加者には後れを取ったスタートだが、中国語だけではなく英語、コミュニケーション能力、教養について、自分自身の能力と価値観を磨くために努力したい。